

水害から命を守るために



まずは河川が氾濫する前に、浸水しない場所へ

あなたや家族の状況に応じて、早めの避難を検討しましょう。
もし、周囲に危険が迫っているなど、避難することに危険を感じたら、
その場そのときで命を守る対応を。

原則 / 早めの避難

河川の氾濫や土砂災害の危険性が高まる前に避難

積極的に情報入手し、避難のきっかけをつかみましょう。



※避難所に入れる人数は限られます。
感染症予防の観点からも、親戚・知人宅
などへの避難も検討してください。

早い段階の避難先

たとえばこんなところへ・・・

- ▶ 親戚・知人宅など、市内に限らずより安全な場所
- ▶ 水害時利用できる避難所・避難場所
- ▶ 避難できる場所がない方は

- ・水害時利用できる避難所・避難場所は一覧で確認しましょう。33～35ページ
- ・避難所の開設は災害の規模や状況によって決めます。すべての避難所を開設するわけではありませので、避難所に行く前に市ホームページなどで開設状況を確認しましょう。



逃げ遅れたら / その場そのときで命を守る対応を

避難することに危険を感じたら、命を守れる場所へ

大雨や強風、夜暗いときなどに避難することは危険を伴います。
無理に避難せずに少しでも安全な場所で身を守りましょう。



逃げ遅れたときの避難先

たとえばこんなところへ・・・

- ▶ 高くて丈夫な建物や高い場所
- ▶ 自宅の高いところ、斜面から離れた部屋
- ▶ 避難所に限らず、駆け込めるところ



命を守れる場所かどうかは、
逃げどきマップ
Nigedoki Map
で判定しましょう。

8～25ページ

避難情報

市は災害の進展に合わせて避難情報を発表します。
中小河川の氾濫や内水氾濫、土砂災害の場合、急激に事態が進展することが多く、避難情報が遅れる場合があります。避難情報に加え、雨の降り方や、がけ崩れの予兆現象に注意してください。

詳しくは、6～7ページ

内水氾濫とは...

低いところに水が溜まったり、
雨水を下水道や川に流しきれずに
市街地が浸水することです。



避難指示を聞いてからは原則歩いて避難

避難指示を聞いてから車で避難した場合、混雑による渋滞の発生が考えられます。
車での避難を考えている方は「高齢者等避難」などのより早い段階で避難を心掛けましょう。



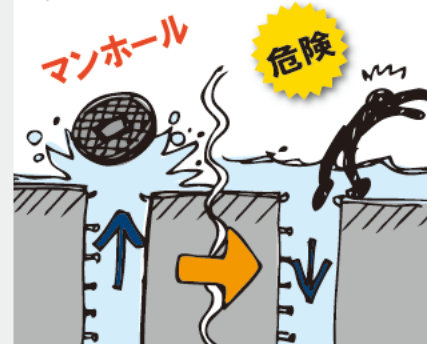
低い道路には注意しましょう

周囲より低く水の溜まりやすい道路（アンダーパスなど）の通行には注意しましょう。
エンジンなどが停止し、車が動かなくなるおそれがあります。



浸水した道路は通らない

水が濁って、足元が見えにくくなります。もしマンホールや排水溝などのフタが外れていると転落して危険です。



逃げ遅れて、自宅にとどまる場合は注意しましょう

同じ建物でも、上層階など浸水から安全に身を守れる場所へ避難しましょう。

浸水よりも高く



自宅にとどまるとしても、水道や電気、ガス、トイレなどが使えなくなるかもしれません。
また、長期間孤立するおそれがあるため、飲料水や食料などの十分な準備と、水が引くまでのがまんが必要です。



がけ崩れの予兆現象に気づいたら、土砂災害から命を守る対応を

がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）とは

地面にしみ込んだ水が斜面をゆるめ、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることです。

がけ崩れの予兆現象



逃げ遅れたら、2階以上に上がり、斜面から離れた部屋など、少しでも安全な場所へ避難しましょう。

上層階で斜面から離れた部屋

